

がん情報サロンボード

2018/12/17

がん情報サロン 富田 明人

ノーベル生理学・医学賞とがんゲノム医療

平成最後の年もあとわずかとなりました。今年は台風、地震、水害と激動の毎日でしたね。

年末に向けて大きな2つのニュースが飛び込んできました。一つは、2018年のノーベル生理学・医学賞に京都大学教授 本庶 佑博士、アメリカテキサス大学MDアンダーソンがんセンターのジェームズ・アリソン博士にノーベル生理学・医学賞の受賞が決定したビッグなニュースです。

本庶 博士は免疫システムにブレーキをかけるPD-1を発見し、これまでとは全く異なるタイプの第4の治療法を開発しました。

一方、アリソン博士は、CTLA-4という別のブレーキを発見しました。ブレーキは必要ないと思われませんが、自分の細胞を攻撃しないためや、過剰な免疫反応を抑える重要な役割を担っています。がん細胞はこのシステムを悪用して免疫の攻撃からのがれ増殖してがんの病気を引き起こすと考えられています。

そこでPD-1やCTLA-4の働きを封じて免疫細胞にブレーキがかからないようにし体にある免疫の力でがん治療をしようと考えたのです。

そのような研究から開発されたのが、PD-1免疫チェックポイント阻害剤「ニボルマブ」やCTLA-4の「イビリムマブ」です。免疫チェック阻害剤の使用で治療の効果は一部の患者に限られましたが、がんが縮小し大きな効果が認められました。

従来のがん治療は手術、放射線、化学療法でしたが、免疫チェックポイント阻害剤による新しい治療が加わりました。

オプジーボ（ニボルマブ）の薬価が話題となりましたが、当初の薬価は1瓶（100mg）あたり約73万円でした。その後薬価の改定がなされ今年の11月から17万円となっています。

現在、オプジーボの保険適用がんは、悪性黒色腫、肺がん（非小細胞、二次治療からのみ使用可能）頸頭部がん（舌がん、咽頭がん）胃がん（切除不能なものに限る）等に限定されています。

保険の適用が拡大されていますが、適用が限定されていますので副作用の情報等が少ないです。今後研究が進み患者にやさしい薬の開発を期待したですね。

もう一つのニュースは、12月14日の朝日新聞のトップに掲載された「最適な治療法を探る遺伝子検査」厚生省部会 がんゲノム医療を了承と言う記事でした。患者のがん細胞の遺伝子を網羅的に調べ、患者ごとに最適な治療法をさぐる「ゲノム医療」が解禁され、来春には公的保険が適用される見通しとなり、個々のがん細胞の特徴に合う薬を選択できるオーダーメイド型となる画期的な決定です。

検査機関は全国11カ所の中核拠点病院と135の医療機関で検査できます。対象は固形がんで再発や進行して標準治療が受けられない患者、小児がんや希少がんなどの限られた患者に限られますが、検査することで、治療法がないとされてきた患者に合う薬が見つかる可能性があります。患者には大きなプレゼントになるかもしれません。

今後はこのシステムが拡充されて、患者に標準治療からよりやさしいオーダーメイド医療が拡充されることを望みたいです。

（富田）